



2021 年建設従事者の「夏場の実態調査」報告書

実施: 2021/7/20~8/8 協力: 他産業 8 人の労働者

京建労青年部

2021年京建労青年部「夏場の実態調査」と取り組みに関するアンケートについて

京建労青年部では2021年2月から「2021年版建設で働く若者のためのいろいろ教えてアンケート」をとりくみました。アンケート結果に関しては下記のQRコードからご覧ください。そこでは非常に厳しい就労実態と賃金状況が明らかになり、5人に1人は時給換算で最低賃金水準にあることなど業界にも大きな衝撃を与えました。

青年部では2021年5月にアンケートの結果をまとめ、6月には集団的に分析や意見交換を行い、より具体的な要求活動につなげるため、2020年夏に行った「最低賃金生活体験」の結果と重ね、「夏場の実態調査」と題した13項目の家計簿調査を7月20日から8月8日の20日間行いました。

過酷と言われる夏場の建設現場において、支出から傾向を見出し、統一的な要求を見つけようと取り組みました。青年部からは13人の仲間が調査に参加。また今回は他産業と比較するため、技能系や外部で働く青年仲間(金属加工、理学療法士、保育士、介護士、教師など8人)にも同様の調査を同じ期間に行いました。

家計簿項目は①自炊費用、②外食費用、③飲料費用、④嗜好品、⑤被服・履物費、⑥保健医療費、⑦理容衛生費、⑧交通・通信費、⑨教育娯楽費、⑩交際費、⑪組合費など、⑫自動車関係費、⑬その他に分類し支出を計算。

ただし計上しないものとして、経費として引けるもの、家賃やローンなどの住宅費、水道料金や電気代ネット費用などの水道光熱費分類、奨学金の返済、健康保険料などの社会保険料としました。

集計形式は、建設と他産業に分かれ、グループごとにGoogleフォームを作成。毎日自身の名前と該当する日付、13の項目に関し支出があった場合は入力してサーバーに送信する形式にしました。なお参加者どうしの交流の場として、専用オープンチャット(以下OC)を作成しとりくみながら日々の意見交流も行いました。

調査結果とは別に、それぞれが非接触スタンドアロンで活動していく中で、OCなどのSNSを活用し、ところどころZoom会議などオンライン上の対面対話で介しながら、それぞれの仕事をリスペクトしあえる非常にいい機会を得ることができました。

このとりくみを介して、建設青年の具体的な要求として、「生活費に食い込む仕事(体調管理)の費用の請求または補償」、「週休2日制の導入とともに、月給制の導入、残業代など別枠での手当の支払い」、「建設産業全体での夏場の単価引き上げ」などを話しあっています。

あらためて同運動に協力してくれた他産業の仲間から心からお礼を申し上げるとともに、今この時点でもやりがいを感じながらも離職を考えている仲間がいることを重きにとらえ、運動を展開していく決意です。



京建労青年部長 山川虎ノ介

夏場の実態調査

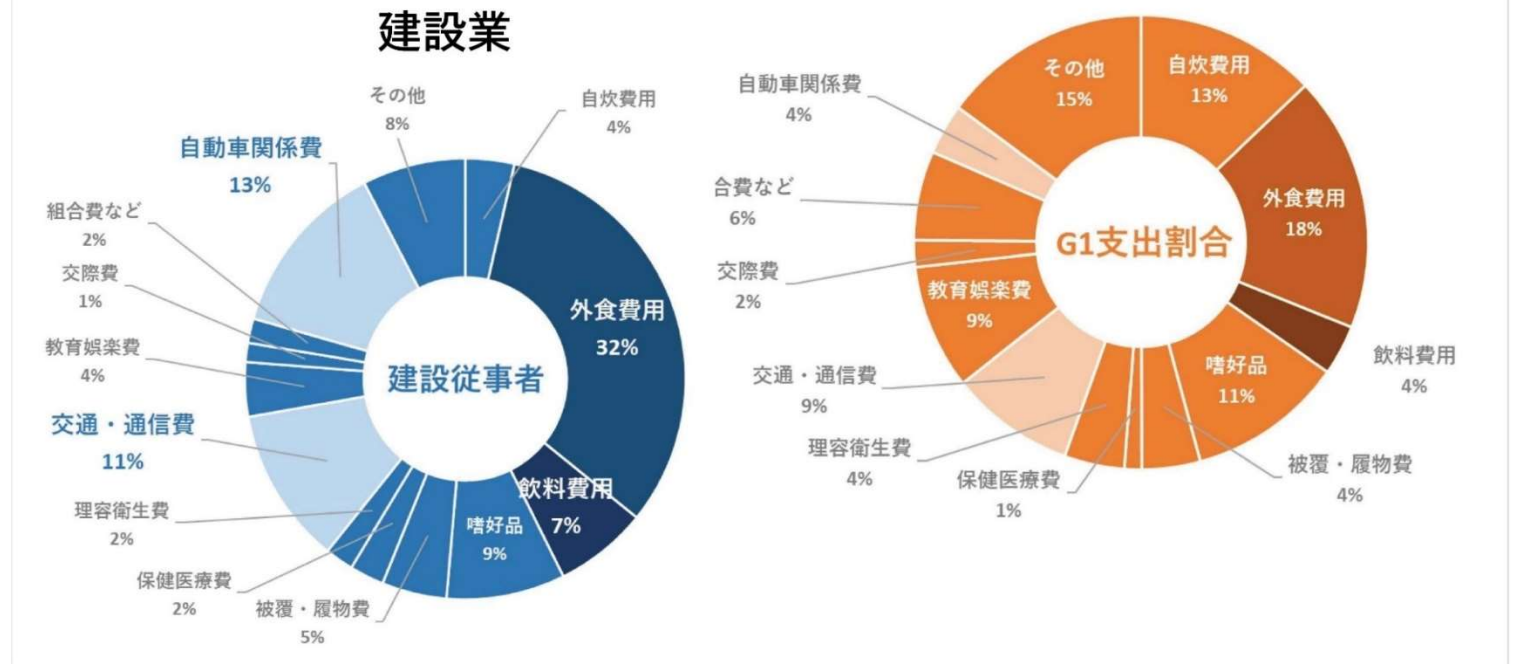
支出関係について

建設業と他産業の支出割合について、7/20から8/8の20日間の集計結果。建設従事者と他産業の2グループを比較。他産業は技能系の労働者を選抜。

総合的な結果として建設従事者は①自炊費用と⑨教育娯楽費、⑬その他が極端に低い傾向。①と⑨に関しては後述する就労時間や就労後の時間にも大きくかかわっている。主たる理由としては就労後の時間のもち方に違いがあり、建設従事者はほとんどが直帰し、他産業はある程度就労後に自分の時間（家の用事含む）を設けている点があった。

また極端に支出が多いのが②外食費用、③飲料費用、⑫自動車関係費で、②は他産業が手持ち弁当や会社支給などがあるのに対し、建設産業は夏場の腐敗を避けるために外食に行くまたは、コンビニ弁当で対応している仲間が多かったのも特徴的。同様に③は熱中症対策として自費で購入している分、⑫建設業特有の課題で交通費の支給が無い、または一部負担を強いられている仲間が少なからずいる現状がわかります。

支出割合の比較



参加者の支出金額とその比較

20日間の支出金額の比較では、建設従事者は平均73,005円、1日平均で3,650円となりました。他産業では106,504円で建設業との差額は33,499円、1日平均では5,325円で差額は1,675円となり、他産業と比較して建設従事者は支出が約3分の2と、非常に控えた生活をしていることがわかります。

支出項目ごとの比較では、前述の①自炊費用が最も差が多く-11,095円、次いで⑬その他が-10,317円となります。⑨教育娯楽費に関しては、-6,565円と建設従事者が娯楽費用などを自己投資を控えて生活しているもよくわかります。

支出項目ごとの比較

支出項目	建設従事者		他産業		1人平均の差額 (建設-他産業)
	総使用金額	1人平均	総使用金額	1人平均	
自炊費用	¥34,125	¥2,625	¥109,761	¥13,720	¥-11,095
外食費用	¥305,838	¥23,526	¥155,276	¥19,410	¥4,117
飲料費用	¥64,928	¥4,994	¥30,343	¥3,793	¥1,202
嗜好品	¥82,595	¥6,353	¥94,758	¥11,845	¥-5,491
被服・履物費用	¥45,202	¥3,477	¥35,428	¥4,429	¥-951
保健医療費	¥23,960	¥1,843	¥10,369	¥1,296	¥547
美容衛生費	¥19,952	¥1,535	¥36,585	¥4,573	¥-3,038
交通・通信費	¥109,043	¥8,388	¥75,861	¥9,483	¥-1,095
教育娯楽費	¥37,760	¥2,905	¥75,755	¥9,469	¥-6,565
交際費	¥13,300	¥1,023	¥16,203	¥2,025	¥-1,002
組合費など	¥17,000	¥1,308	¥54,142	¥6,768	¥-5,460
自動車関係費	¥123,426	¥9,494	¥30,744	¥3,843	¥5,651
その他の費用	¥71,940	¥5,534	¥126,809	¥15,851	¥-10,317

支出割合の比較

建設業

	総使用金額	1日平均
山川部長	¥85,700	¥4,285
深田書記長	¥21,488	¥1,074
西脇さん	¥60,087	¥3,004
上岡さん	¥12,400	¥620
高井さん	¥37,210	¥1,861
日笠さん	¥165,830	¥8,292
壹岐さん	¥118,623	¥5,931
梅田さん	¥97,440	¥4,872
茨木さん	¥142,830	¥7,142
酒井さん	¥36,244	¥1,812
大西さん	¥67,537	¥3,377
柏木さん	¥58,950	¥2,948
小崎さん	¥44,730	¥2,237

他産業

	総使用金額	1日平均
Mさん(金属加工)	¥180,397	¥9,020
Hさん(医療)	¥92,268	¥4,613
Tさん(保育)	¥34,600	¥1,730
Mさん(法務)	¥124,424	¥6,221
Nさん(高校教員)	¥138,003	¥6,900
Kさん(漢方薬営業)	¥126,811	¥6,341
Yさん(障害者施設)	¥85,084	¥4,254
Hさん(障害者施設)	¥70,447	¥3,522

平均額の比較

20日間の平均総使用金額

建設業：73,005円

他産業：106,504円

差額33,499円

1日間の平均使用金額

建設業：3,650円

他産業：5,325円

差額1,675円

もう1点は前述にもあったように自動車関係費です。1人平均の差額では自動車関係費は建設従事者が+5,651円と負担が高いのがわかります。平均支出で3万円の差があるにもかかわらず、これだけの差額があるのも今後の要求へ含めた議論が必要であると考えます。飲料費用も同様の点が言えます。

金銭的な差額で要求を定めるわけにはいきませんが、上記の調査で見えてきた内容について、調査終了後に参加者に協力いただいたアンケートにてさらに課題をわかりやすくすることができました。それについては以下の項目にて記述します。

また上記調査内での個別支出などについても以下のアンケートに係わる部分で記述している部分もあります。

参加者を対象に調査したアンケート

夏場の実態と働き方（空調服について）

実態調査終了後にとりくんだアンケートでは金銭的な調査とは別に、夏場の働きなどさまざまな角度で調査を行いました。多項目にわたるので、まとめて記述します。

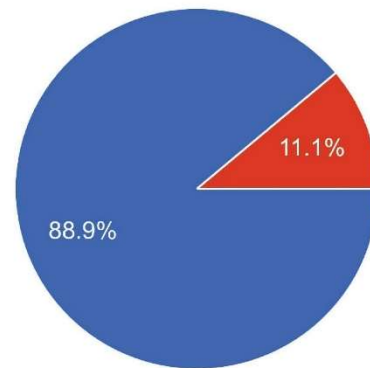
まずは空調服について。調査をすすめる中で、現場従事者にとっての熱中症対策として、空調服と水分について議論が及びました。アンケートでは空調服の所持についてと、その費用負担について尋ねました。

建設従事者のおよそ9割が着用して仕事していると答え、逆に他産業（技能系）は空調服を着用して仕事をしていない状況にあることがわかります。

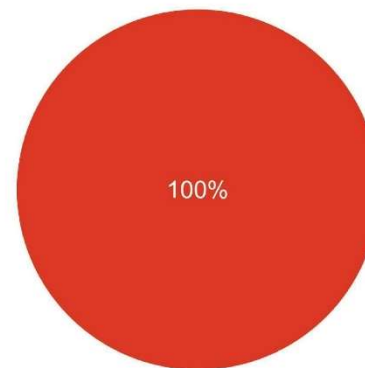
また建設従事者の空調服購入費用については、実費が44.4%、会社から支給が44.4%で京都府のコロナ補助金を機会に購入したのが11.1%でした。9割が着用するほど現場に定着し、熱中症対策に有用であるにもかかわらず、半数近くが実費で購入している現状がわかりました。実態調査でもあるように労働者でありながらも道具や着用するものなどが生活資金から支出されている厳しい実態の表れでもあります。

空調服を着用して仕事をしていますか

建設業



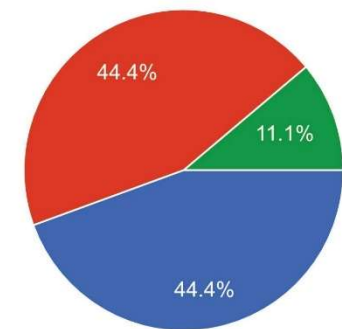
他産業



- 着用している
- 着用していない（所持していない含む）

空調服の購入費用について

- 実費（自分負担）
- 会社から支給（事業主・親方が購入）
- 元請などから支給（会社や事業主以外から支給）
- コロナ補助金

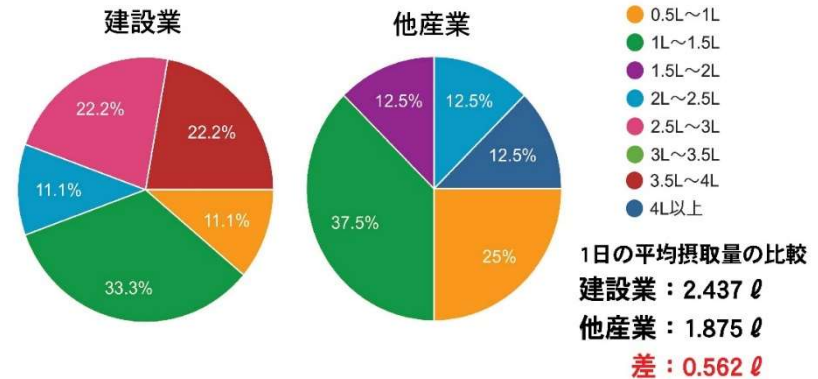


夏場の実態と働き方（水分の購入費用）

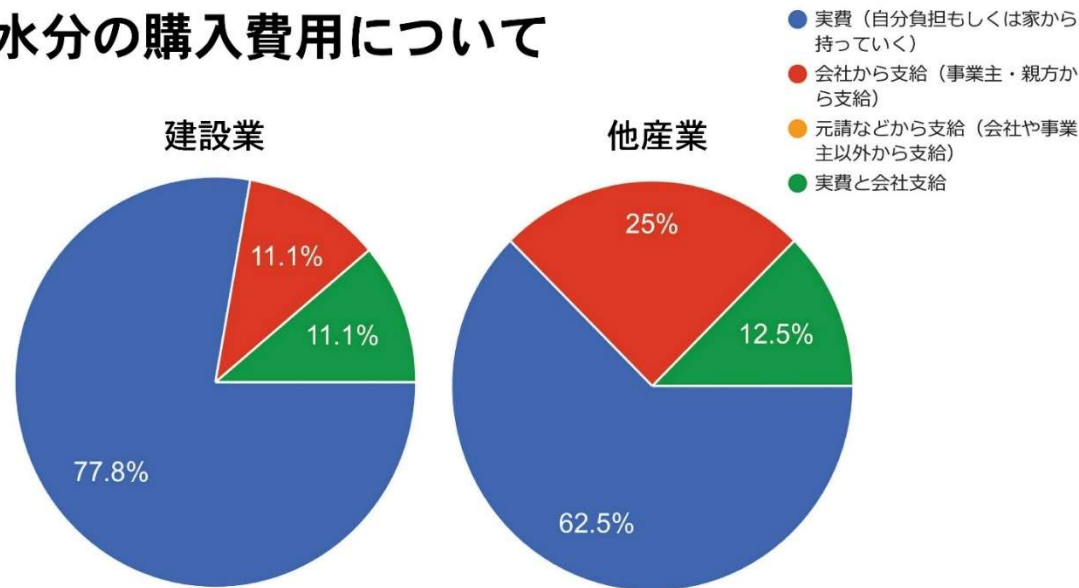
1日の水分摂取量については、1日の平均摂取量では建設従事者が2.437ℓ、他産業では1.875ℓとなり、その差は0.562ℓとペットボトル1本以上の差が出ました。両グループとも1日1ℓから1.5ℓ摂取が一番多いものの、1日に2.5ℓ以上、多くは4ℓ摂取する仲間もいます。夏場の建設従事者にとって水分は文字通り生命線であり、いのちの綱であることは言うまでもありません。

毎日消費する水分に関してのコストも非常に大切な点でもあります。水分の購入費用について問うた項目では、建設業で77.8%、他産業で62.5%が実費負担と回答しています。建設業では「実費と会社負担」をふくめれば9割近くが何らかの形で実費になっています。

1日の水分摂取量について



水分の購入費用について



他産業では熱中症対策として25%が会社から水分が支給されているところもあり、この差は非常に大きいといえます。

また重要な点として「元請けなどから支給」と答えた仲間は1人もいなかったことです。現場の安全管理上、水分の支給はあってしかるべきですし、冷房付き控室や製氷機設置に加えて、1日必要分の水分配布も要求点として見えてきた部分です。

毎日のしかかるこの費用負担を雇用主や元請けに求め、負担軽減をめざすことも重要な要求といえます

調査期間中の働き方比較（休みの日）

最終アンケートで最も他産業との差が顕著だったのが休みの日です。グラフのオレンジの部分が一般的に休日といわれる土日祝なのですが、建設の仲間で休みの日は、ほぼ日曜日のみで、土曜日や祭日はほぼゼロといえます。対して他産業はほぼカレンダー通りの休日で、平日も休みをとっている仲間もいます。

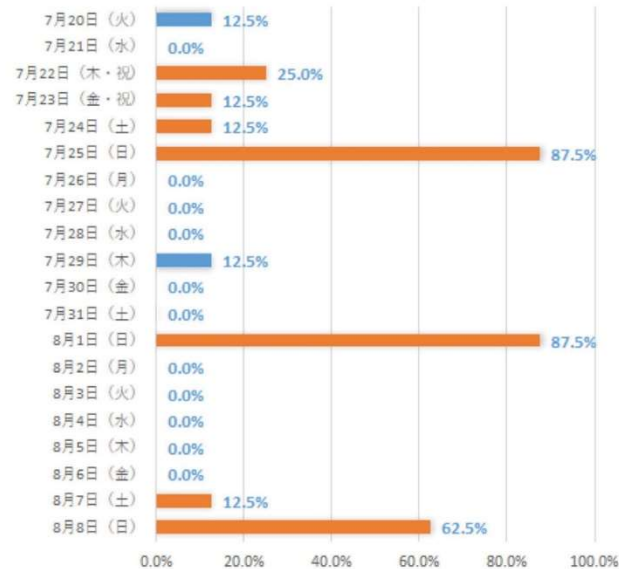
調査期間中（20日間）の平均値は建設業で3.25日。対して他産業は8.12日とカレンダーを上回る休日日数です。その日数は倍以上でいかに建設産業が休めない業

界かということを示しています。社会との乖離といえるこの現状を仕組みも含めて打破しないと、若者が育つ建設業への道は非常に厳しいといえます。

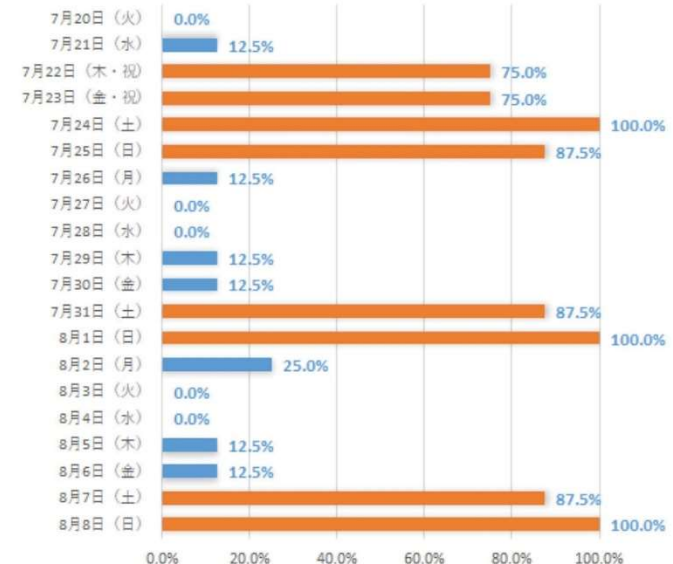
休めない、休めていない現状にはさまざまな理由があると思います。日給月給という給料形態や、出来高や単価制度なども要因かもしれません。今後も大切な課題として議論をすすめます。

調査期間中（7/20～8/8）の休みの日

建設業



他産業



調査期間中の休日の平均値（20日間中）

建設業：3.25日/20日 他産業：8.12日/20日

差：-4.87日 期間中の休日（土日・祭日）：8日/20日

調査期間中の働き方比較（出勤時間と帰宅時間）

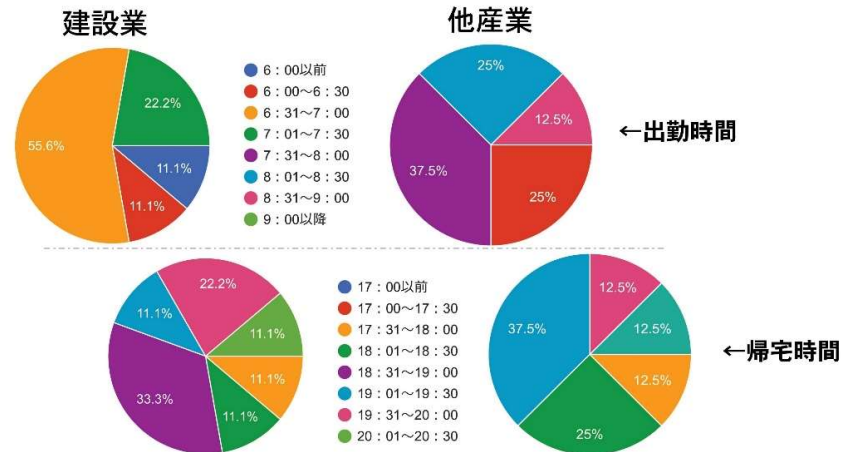
調査期間中の家を出る時間と帰ってきた時間の比較では、建設業の8割近くが7時までに家を出るのに対し、他産業は7時までに家を出るのはごく少数で、多くは8時前後の出勤となっています。

帰宅時間は平均値ではほぼ変わりはありません。

仕事のあとに趣味などの活動に参加する日数では、平均値で建設業で2.75日、他産業で5.62日となりました。

この数値に関しては建設従事者への聞き取りで、夏場の過酷な労働によりほぼ直帰で体力維持に努めていることもわかりました。他産業では「自炊費用」「教育娯楽費」や「その他費用」などの出費に反映されるように趣味や買い物などの時間に当てられていることがわかりました。

調査期間中(7/20~8/8)出勤&帰宅時間



家を出る時間の平均値

建設業：6：26

他産業：7：26

家に帰る時間の平均値

建設業：18：56

他産業：19：00

家を出て帰るまでの時間

建設業：12時間30分

他産業：11時間33分

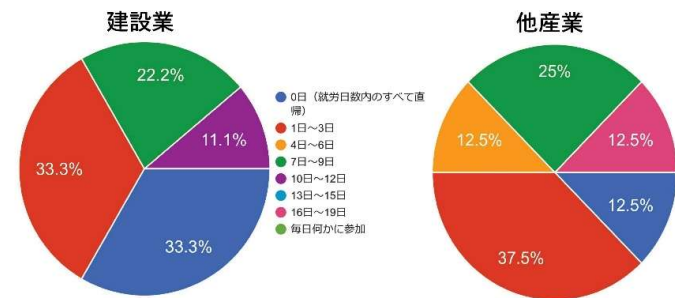
期間中に仕事のあとに、趣味などに参加した日数の平均値

建設業：2.75日/20日(0日と回答37.5%)

他産業：5.62日/20日(0日と回答12.5%)

差：-2.87日

調査期間中(7/20~8/8)仕事のあとに趣味や交流、組合などに参加した日数



調査期間中の働き方比較（通勤手段と交通費の支給）

通勤手段では建設の多くの仲間が直接現場に車やバイクで出勤していました。次に多いのが乗り合いでの出勤です。徒歩や電車で現場に向かう仲間は今回の調査ではいませんでした。

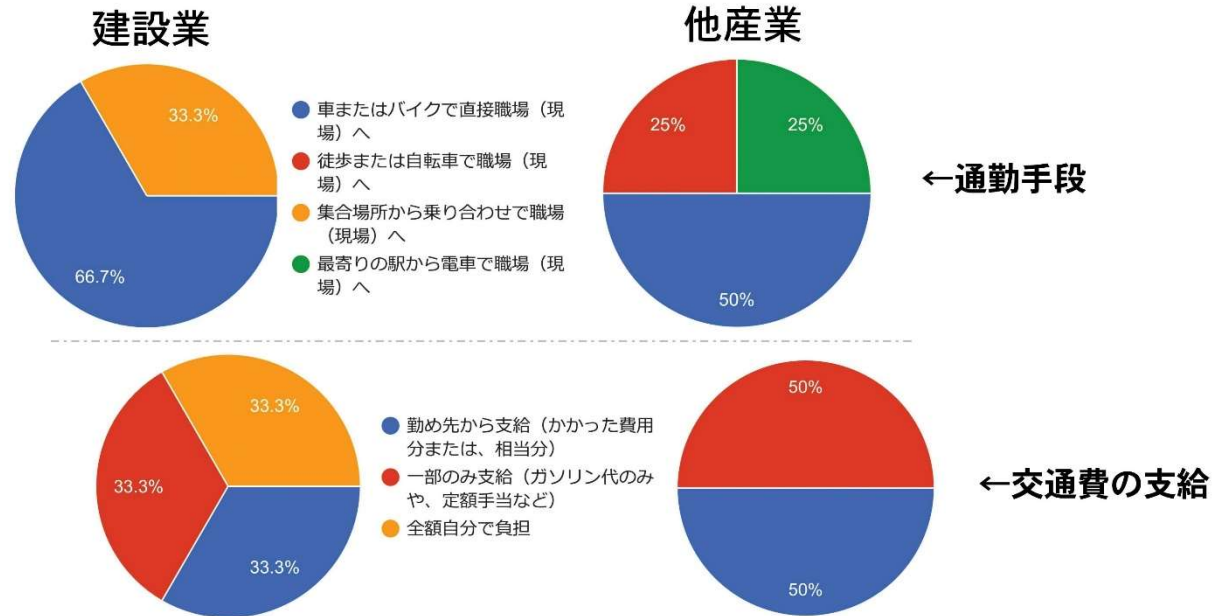
交通費の支給に関しては、建設従事者の33.3%が全額自分で負担している現状で、相当分の支給を受けているのも33.3%と3人に1人しかいませんでした。

なお他産業では全額自己負担は0人。一部のみ支給と相当分の支給が5割ずつでした。2ページ目の自動車関連費や交通通信費が他産業より負担が多くなっ

ているのはこの点であり、社会一般的に手当として支給される部分が計上されていない、もしくは外注となっているためコミコミの支払い（働かせ方）になっている実情がよくわかります。

一概に交通費の請求という要求にはなりにくいですが、これだけの仲間が交通費を自己負担で働いている現状は解決に結びつけないと、他産業との溝は開くばかりです。全額自己負担の仲間にも再度調査を行い、就労形態や契約形態などもう一段階調査が必要といえます。

通勤手段と交通費の支給について



調査に寄せられたさまざまな声

調査期間中に最も大きな支出は

【建設業】	【他産業】
・生命保険料	・靴を2足買った
・ 道具盗難による出費	・旅行代
・外食費用	・消しゴムハンコなど芸術作品の購入
・ ガソリン代	・窓用のエアコン購入
・ 空調服のバッテリー買い替え	・自家用車の修理
・結婚準備費用	・眼鏡を2つ購入
・ 仕事用の車の修理	・スマホの通信費

期間中に最も大きな支出はと答えた質問では、建設の仲間では回答記入者の半数以上が仕事にかかわる支出でした。他産業では身の回りのものや芸術作品、旅行など自己への投資品が多く占めています。これからもわかるように、やはり建設従事者は仕事にかかわる支出が生活費を圧迫している、もしくは支出を強いられている現状があります。

他産業と比較して収入の金額だけではない部分で、建設従事者が厳しい状況に置かれている、二重の苦しみを強いられているのが今回の調査を通じて明らかになったといえます。

仕事中に命の危険を感じた内容はどのようなものですか

【建設業】	【他産業】
・現場作業からの帰りに交通事故にあいそうになった	・自転車で訪問先へ移動中に自動車と正面衝突しかけた
・高所からの転落（実際に落ちた）	・急ぎの用事で自転車に乗っていた時に車にぶつかりかけた
・鉄筋が目に刺さった	・熱中症
・足場から落ちそうになった	・有機溶剤
・屋根から落ちた	・利用者さんからの暴力
・熱中症	・特になし

さいごに

コロナ禍において対面の運動ができない中で、2020年夏の最低賃金生活から働き方アンケート、夏場の実態調査とさまざまな仲間の協力と活躍で非常に有用なデータが収集できたことに感謝申し上げます。京建労青年部では最賃水準で暮らす仲間の実態に寄り添い、なぜ最賃水準にあるのか、なぜ厳しい生活水準なのかを探ってきました。今回の実態調査を経て、早急にも対策を打たないと入職者確保どころか、今働く仲間でさえ離職しかねない現状がよくわかりました。

加えて他産業の協力により働くことの常識を知り、自分たちの産業の特異性などを知ることができました。「建設業だから」と課題にふたをするのではなく、自分たちのためと入職してくるかもしれない若者たちのために、改善していかなければならないと話しあいを続けています。

働き方アンケートでもありましたが、多くの仲間がこの仕事に誇りややりがいをもって日々働いています。その思いの上にあぐらをかくように、たくみに働き方や請負形態の改悪や負担増を強いてくる、大手ゼネコンなどの上部構造には今回の調査をもって抗う決意を青年部役員ではしています。また命を懸けて夏場働いている仲間たちに対し、単価の引き上げや状況の認識を社会に対しても訴えていかなければならないと話しあいました。施主さんや自治体などの発注者にも夏場の実態を知ってもらい、単価引き上げなどの理解は広げていかなければなりません。

「誇りややりがいはあるけど、いつも安い・厳しいの天秤で揺れている」とギリギリの状態で働いていることを告白してくれた仲間もいます。誰しもが夢をもって働ける産業へと、変えていくためには要求活動を強化していく必要があると話しあっています。

今回の調査で判明した課題を精査し、2022年の京都府知事選挙、大手企業交渉などに率先して青年部員が参加し、訴えを行っていくとともに、他産業や上部団体にも同調査報告を送付し、実態を知ってもらい「建設産業を良い産業に」への協力を訴えたいと思います。

今回の調査では他産業のさまざま仲間と交流を通し、建設の実態に思いを寄せてくれています。最後にその仲間たちから送られた建設従事者へのエールを紹介し、結びとします。

京建労青年部役員一同

他産業の仲間から寄せられた建設の仲間へのエール

- ・夏は生命維持に余暇も実費も持っていかれ過ぎている
- ・今回はお金の支出額を比較するよりも、支出項目に関する精査がとても重要になると思います。例えば、飲料費や交通費など、事業主負担であるか否か。また娯楽や趣味にかける支出割合などの比較も必要かもしれません。
- ・夏場の過酷な状況中で飲料水などの支給が無く自己負担であること事態がおかしい!おかしいをそのままにせず声を上げて要求に繋げて欲しい。
- ・自己負担が多く、福利厚生や補償が、他職種と比べて、弱いと感じました。これじゃ、夢を描く以前に、目の前の事しか見れない。
- ・夏場の環境が過酷すぎると感じた